

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書

東向遺跡 a 地点

麦丸遺跡 f 地点

妙見前遺跡 c 地点

桑納遺跡 c 地点

上谷津台南遺跡 e 地点

新東原遺跡 g 地点

桑橋新田遺跡 d 地点

逆水遺跡 e 地点

井戸向遺跡 a 地点

作山遺跡 b 地点

向山遺跡 d 地点

殿内遺跡 c 地点

平成 18 年度

八千代市教育委員会

凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成18年度市内遺跡発掘調査事業として、国及び県の補助金を受けて作成した発掘調査報告書である。
2. 調査遺跡名及び所在地、調査期間、調査面積、調査原因、調査担当は下記のとおりである。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因	調 査 担 当
1 東向遺跡 a 地点	吉橋字東向2700-1	平成17年5月16日～ 平成17年5月19日	上層 59.4㎡/429.08㎡ 下層 6.8㎡/429.08㎡	通信铁塔建設	秋山利光
2 麦丸遺跡 f 地点	麦丸字金塚1122-1	平成17年5月23日～ 平成17年5月26日	上層 39.6㎡/282.1㎡ 下層 9.6㎡/282.1㎡	通信铁塔建設	秋山利光
3 妙見前遺跡 c 地点	吉橋字妙見前1375-1	平成17年6月1日～ 平成17年6月11日	上層 113.6㎡/775.76㎡	宅地造成	秋山利光
4 桑納遺跡 c 地点	桑納字井作198-1ほか	平成17年6月6日～ 平成17年6月11日	上層 40.9㎡/291.84㎡ 下層 6.75㎡/291.84㎡	通信铁塔建設	秋山利光
5 上谷津台南遺跡 e 地点	上高野字上谷津台1082-1 の一部	平成17年6月6日～ 平成17年6月24日	上層 342㎡/2,897㎡	宅地造成	宮澤久史
6 新東原遺跡 g 地点	勝田字新東原1259-2,6	平成17年6月29日～ 平成17年7月2日	上層 64㎡/595.77㎡ 下層 8㎡/595.77㎡	共同住宅建設	秋山利光
7 桑橋新田遺跡 d 地点	桑橋字大東台774-5ほか	平成17年7月8日～ 平成17年7月21日	上層 410㎡/2,970.68㎡ 下層 32㎡/2,970.68㎡	店舗建設	秋山利光
8 逆水遺跡 e 地点	米本字逆水1221-1ほか	平成17年7月21日～ 平成17年8月4日	上層 377㎡/3,012㎡	資材置場	宮澤久史
9 井(向)遺跡 a 地点	ゆりのき台3-4,5,6	平成17年8月17日～ 平成17年8月29日	上層 978㎡/13,570.46㎡	集合住宅建設	宮澤久史
10 作山遺跡 b 地点	小池字長作377,378	平成17年10月20日～ 平成17年10月24日	上層 24㎡/228.17㎡	通信铁塔建設	宮澤久史
11 向山遺跡 d 地点	大和田新田字向山510-2 ほか	平成17年10月5日～ 平成17年10月26日	上層 380㎡/3,958㎡	店舗建設	森 竜哉
12 殿内遺跡 c 地点	村上字殿内1567の一部	平成17年11月17日	上層 64.3㎡/499.95㎡	集合住宅建設	森 竜哉

3. 整理作業は、平成17年度事業として平成17年6月24日～平成17年12月26日にかけて行い、報告書作成作業は、平成18年度事業として平成19年1月10日～平成19年3月27日にかけて実施した。
4. 本書の執筆は、朝比奈竹男がIを、他を森竜哉が行い、朝比奈が総括した。
5. 出土した遺物・写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
6. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、次の方々からご指導・ご教示を賜った。記して謝意を表する。
千葉県教育庁文化財課 常松成人 中野修秀

目 次

凡 例

日 次

挿図目次

図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 各遺跡の概要	5
1. 東向遺跡 a 地点	5
2. 麦丸遺跡 f 地点	7
3. 妙見前遺跡 c 地点	9
4. 桑納遺跡 c 地点	11
5. 上谷津台南遺跡 e 地点	13
6. 新東原遺跡 g 地点	15
7. 桑橋新田遺跡 d 地点	16
8. 逆水遺跡 e 地点	18
9. 井戸向遺跡 a 地点	21
10. 向山遺跡 d 地点	23
11. 作山遺跡 b 地点	25
12. 殿内遺跡 c 地点	26

図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 市内遺跡位置図	3
第2図 東向遺跡位置図	5
第3図 東向遺跡 a 地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物	6
第4図 麦丸遺跡位置図	7
第5図 麦丸遺跡 f 地点トレンチ配置図・出土遺物	8
第6図 妙見前遺跡位置図	9
第7図 妙見前遺跡 c 地点遺構検出状況図・出土遺物	10
第8図 桑納遺跡位置図	11
第9図 桑納遺跡 c 地点遺構検出状況図・基本層序・出土遺物	12
第10図 上谷津台南遺跡位置図	13
第11図 上谷津台南遺跡 e 地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物	14
第12図 新東原遺跡位置図	15

第13図	新東原遺跡 g 地点トレンチ配置図	15
第14図	桑橋新田遺跡位置図	16
第15図	桑橋新田遺跡 d 地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物	17
第16図	逆水遺跡位置図	18
第17図	逆水遺跡 e 地点遺構検出状況図・基本層序・出土遺物	19
第18図	井戸向遺跡位置図	20
第19図	井戸向遺跡 a 地点遺構検出状況図	21
第20図	向山遺跡位置図	23
第21図	向山遺跡 d 地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物	24
第22図	作山遺跡位置図	25
第23図	作山遺跡 b 地点トレンチ配置図・基本層序	25
第24図	殿内遺跡位置図	26
第25図	殿内遺跡 c 地点遺構検出状況図・出土遺物	27

図 版 目 次

図版 1	東向遺跡 a 地点・麦丸遺跡 f 地点
図版 2	妙見前遺跡 c 地点・桑納遺跡 c 地点
図版 3	上谷津台南遺跡 e 地点・新東原遺跡 g 地点・桑橋新田遺跡 d 地点
図版 4	桑橋新田遺跡 d 地点・逆水遺跡 e 地点
図版 5	井戸向遺跡 a 地点・作山遺跡 b 地点
図版 6	向山遺跡 d 地点・殿内遺跡 c 地点

I 調査に至る経緯

八千代市は、首都圏のベッドタウンとして開発が進んだ地域であり、平成8年4月の東葉高速鉄道の開業以来、さらにその傾向を強めている。また調整区域の見直しによる開発制限の緩和により、従来住宅地には許可の制限された地域についても開発事業が進められている。こうした状況の中、本市教育委員会では千葉県教育委員会の指導のもと、開発事業者からの予定地内にかかる「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の事前手続き（以下「照会」と略す）により対処し、埋蔵文化財の保護に努めている。このうち確認調査が必要と判断される事業について国庫及び県費による補助を受け、市内遺跡発掘調査事業として調査を実施している。

以下は、平成17年度に発掘調査を実施した遺跡の調査に至る経緯である。

ひがしむかい 東向遺跡 a 地点

平成17年3月、都築通信技術株式会社より市内古橋の携帯電話通信鉄塔建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。八千代市教育委員会（以下「市教委」と略す）で現地踏査を行ったが照会地内では遺物等の散布は見られなかったものの周知の遺跡の範囲内であることを考慮し、遺跡が所在する旨回答した。その後取扱いにかかる協議を行った結果、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年4月、文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事のための発掘届（以下「土木工事の届」と略す）が提出され、準備の整った5月16日に調査に着手した。

むすまる 麦丸遺跡 f 地点

平成17年3月、都築通信技術株式会社より市内麦丸の携帯電話通信鉄塔建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委では現地踏査の結果、隣接地の畑地において縄文土器及び奈良・平安時代の土師器の散布が見られることや周知の遺跡の範囲内であることを考慮し、遺跡が所在する旨回答した。その後、取扱いにかかる協議を行った結果、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年4月、土木工事の届が提出され、準備の整った5月23日に調査に着手した。

みょうけん 妙見前遺跡 c 地点

平成17年1月、有限会社丸吉商事より市内古橋の宅地造成にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行った結果、照会地や隣接地において縄文土器や土師器の散布が見られた。周知の遺跡の範囲内であり、吉橋城跡に近い点も考慮し、遺跡が所在する旨回答した。その後、取扱いにかかる協議を行った結果、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年5月、土木工事の届が提出され、準備の整った6月1日に調査に着手した。

かんのう 桑納遺跡 c 地点

平成17年3月、都築通信技術株式会社より市内桑納の携帯電話通信鉄塔建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行った結果、照会地内に塚状の高まりが2ヵ所に認められ、周知の遺跡に隣接している点を考慮して遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年4月、土木工事の届が提出され、準備の整った6月6日に調査に着手した。

上谷津台南遺跡 e 地点

平成17年4月、協和不動産株式会社より市内上高野の宅地造成にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行った結果、照会地内では散布遺物は見られなかったが、周知の遺跡の範囲内であり、隣接地において発掘調査を実施し、成果をあげている点を考慮して遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年5月、土木工事の届が提出され、準備の整った6月6日に調査に着手した。

新東原遺跡 g 地点

平成15年1月、木川満氏より市内勝田の共同住宅建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行った結果、照会地では散布遺物は見られなかったが周知の遺跡の範囲内であり、周辺において調査を行っている点を考慮し、遺跡が所在する旨回答した。平成15年4月に開発面積1,652㎡の内、当初開発予定の1,065.39㎡について確認調査を実施しており、17年度はその残余部分の扱いとなった。平成17年4月、残余部分の開発にかかる土木工事の届が提出され、準備の整った6月29日に調査に着手した。

桑橋新田遺跡 d 地点

平成17年5月、石井伯岳氏より市内桑橋の店舗建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行った結果、隣接地の畑地において薄い状況ではあるが土器片の散布が見られた。周知の遺跡の範囲内であり、遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年6月、土木工事の届が提出され、準備の整った7月8日に調査に着手した。

逆水遺跡 e 地点

平成17年6月、岩井富士男氏より市内米本の資材置場造成にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行った結果、照会地は山林で散布遺物については不明であったが、周知の遺跡の範囲内であり、また隣接地において平成14年5月に調査を実施して弥生時代後期の竪穴住居跡を検出していることから遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年6月、土木工事の届が提出され、準備の整った7月21日に調査に着手した。

井戸向遺跡 a 地点

平成16年11月、シンボ印刷株式会社より市内ゆりのき台の集合住宅建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行ったが、現況は工場であり散布遺物については不明であった。照会地を含む周辺一帯は、萱田地区上地区画整理事業に先行して発掘調査を実施している。照会地は井戸向遺跡の範囲内であり、先の発掘調査においても周辺区域から奈良・平安時代の竪穴住居跡が数多く検出されているため、遺跡が所在する旨回答した。その後事業者が扶桑レクセル株式会社に変更となったが、協議を継続した。調査については、工場解体後の更地になった段階で具体的に詰めることとした。平成17年6月、土木工事の届が提出され、準備の整った8月17日に着手した。



第1図 市内遺跡位置図

むこうやま

向山遺跡 d 地点

平成17年6月、花鳥通氏より市内大和田新田の店舗建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行ったが、現況は山林であり散布遺物については不明であったが、周知の遺跡の範囲内であり、隣接地において発掘調査を実施して縄文時代の遺構・遺物が検出されている点を考慮し、遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年7月、土木工事の届が提出され、準備の整った10月5日に調査に着手した。

さくやま

作山遺跡 b 地点

平成17年7月、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモより市内小池の通信鉄塔建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行ったが、現況は山林であり散布遺物については不明であったが周辺の畑地において遺物の散布が見られた。周知の遺跡の範囲内であり、遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により、事業者が当初の計画を進めたい旨を確認し、発掘調査を予定することとなった。平成17年8月、土木工事の届が提出され、準備の整った10月20日に調査に着手した。

とのうち

殿内遺跡 c 地点

平成17年9月、秋山廣志氏より市内村上の共同住宅建設にかかる、埋蔵文化財の照会文書が提出された。市教委で現地踏査を行ったが、現況の畑地では散布遺物は認められなかった。周知の遺跡の範囲外ではあったが、近接地の八千代市郷土博物館建設に先行して発掘調査を実施し、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されている点を考慮し、所在の有無の判断の目的で試掘を行った。その結果、竪穴住居跡等の遺構が検出された。この時点で緊急に協議を行い、11月17日に調査に着手した。

II 各遺跡の概要

1. 東向遺跡 a 地点



第2図 東向遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

東向遺跡は、市城西部吉橋地区の桑納川南岸に至る、標高23m～25mの台地上平坦部に立地する。遺跡は東側では南北方向の谷津が入り込んでいたが、現在は学校敷地として削平され不明瞭となっている。北側は緩い傾斜で下がり千葉段丘面となっている。

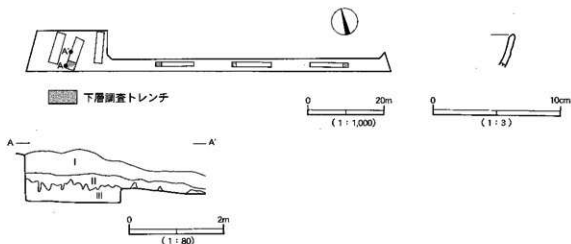
本遺跡での調査例は今回が初めてである。a地点としておきたい。ただ、西八千代北部土地区画整理事業関連で財団法人千葉県教育振興財団による発掘調査事業が進められている。成果は、平成15年度では旧石器時代遺物集中地点、縄文時代陥穴、中近世野馬土手・野馬堀が、平成16年度では縄文時代前期・後期の土器・石器、中近世野馬土手等の遺構・遺物が検出されている。

今回の調査区は北側に向けて緩やかに傾斜して下がっている地形である。西側には北側からの谷が入り込んで遺構が遺存する可能性が高いと判断された。標高は23～24mである。現況は畑地で、事前踏査の段階においても稀少ではあったが土師器が散布していた。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせてトレンチを設定し、遺構確認を行った。進入路部分においては、調査区に平行して1.2m×10mのトレンチを3本、鉄塔予定部分では調査区に直行した形で2m×8mのトレンチを3本とした。遺構確認状況を把握しながら、最終的にはソフトローム下についても確認トレンチを設定し、掘り下げて遺物確認に努めた。

調査期間は平成17年6月6日～6月9日で、6日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、7日人力によるトレンチ内精査及び下層トレンチ掘り下げ、9日土層断面図等図面作成後器材撤収により調



第3図 東向遺跡a地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物

査にかかる全作業を終了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ表土（Ⅰ層耕作土・残土）、Ⅱソフトローム（Ⅲ層）、Ⅲハードローム（Ⅳ層以下）となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はⅢ層上面で行った。また遺構確認終了後、Ⅲ層以下ローム層中の遺物確認のため、調査区の西側・中央・東側の3ヵ所にトレンチを設定し、ハードロームまで掘り下げた。

調査の結果、遺構・遺物共に検出されなかった。遺物については、表面採集のみである。土師器甕胴部小片、近世土師質土器小片で、17世紀後半瀬戸丸皿片(注1)のみ図示した。

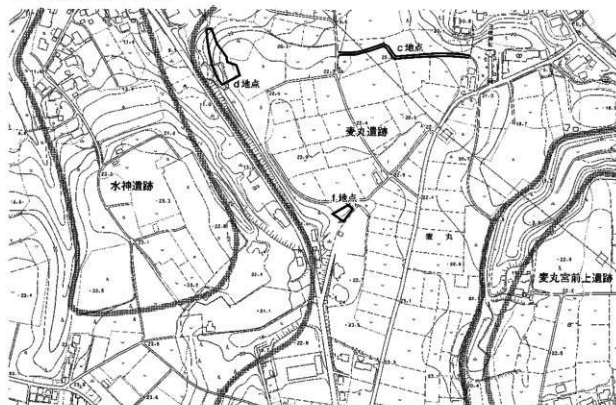
調査のまとめ

今回の調査においては、遺構・遺物は検出されなかった。調査面積が狭く、基本的な土層堆積を示していなかったことにも原因はあると思われる。表面採集の遺物からは、奈良・平安時代、江戸時代の遺構が想定できる。遺跡の立地と概要の項で触れたが、財団法人千葉県教育振興財団による本遺跡内の調査(注2)では、旧石器時代、縄文時代（前期・後期）、近世の遺構・遺物が検出されている。今後調査例が増加していけば、東向遺跡内の土地利用が徐々に判明されるだろう。

(注1) 財団法人千葉県教育振興財団嶋田浩司氏ご教示による。

(注2) 平成14年度、15年度、16年度 千葉県埋蔵文化財発掘調査抄録。

2. 麦丸遺跡 f 地点



第4図 麦丸遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

麦丸遺跡は、市域中央部麦丸地区の桑納川南岸及び東側の新川西岸を臨む標高20m~23mの台地上平坦部に立地する。遺跡は桑納川と新川の合流部分にあたり、西側では南北方向の谷津が入り込み、水神遺跡と対峙する。東側では遺跡ほぼ中央から南方向に谷津が入り込み、遺跡全体では南北に長い台地形状となっている。

本遺跡はこれまでに5地点において調査されている。a地点、b地点は遺跡範囲内南側に位置し、昭和56年に八千代市遺跡調査会が確認調査を行っている。遺構は検出されなかったが、遺物については縄文時代後期土器片を中心として、歴史時代、近世・近代の陶器、土製品、金属器が出土している(注1)。c地点は遺跡北側の台地縁辺部に位置し、農道舗装に先行して確認調査を実施している(注2)。遺構は時期不明の溝状遺構が1条、遺物は表面採集のみで縄文土器、古墳時代土師器小片が出土している。d地点は遺跡北側の桑納川を臨む台地縁辺部に位置し、平成12年八千代市教育委員会が確認調査を実施している(注3)。遺構は縄文時代早期の炉穴1基、時期不明の溝状遺構1条が検出された。遺物は縄文時代早期~後期の土器片及び石鏃が出土した。e地点は遺跡北側の桑納川を臨む台地先端部に位置し、c地点の継続事業として平成16年確認調査を実施した。遺構は弥生時代後期~古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、時期不明の溝状遺構1条、遺物は縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器が出土している。

今回の調査区は遺跡範囲内中央の西側にあたり、南北方向の谷津に面した標高22m~23mの台地縁辺部に立地する。同じ谷津沿いの250m北側にd地点が所在する。調査区の現況は荒蕪地で、周辺部は畑地となっている。現地踏査の際、縄文土器片、奈良・平安時代土師器等遺物の散布を確認している。調査区は、部分的にローム土が表面に確認されていたので何らかの上の入れ替えが予想されたが、縄文時代、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出される可能性も想定された。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせてトレンチを設定し、遺構確認を行った。具体的には細長い三角形形状の調査区に幅1.5m×26m、1.5m×9mのトレンチを各々設定した。重機による掘り下げで遺構確認を随時把握しながら、最終的にはローム下についても確認トレンチを設定し、掘り下げて遺物確認に努めた。

調査期間は平成17年5月23日～5月26日で、23日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、23日～24日人力によるトレンチ内精査及び下層トレンチ掘り下げ、23日～25日土層断面図等図面作成、25日器材撤収により現場を終了し、26日埋め戻しにより全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ盛土（表土からⅢ層のソフトロームまでが掘削され、残土が充填される。）、Ⅱハードローム（Ⅳ層以下）となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はⅡハードローム層で行った。また、遺構確認終了後、ハードローム下ローム層中の遺物確認のため、4ヶ所にトレンチを設定し、40cm程度を日安に掘り下げた。

調査の結果、遺構は検出されなかった。遺物はⅠ盛土中の出土ではあるが、黒曜石の剥片1点である。

調査のまとめ

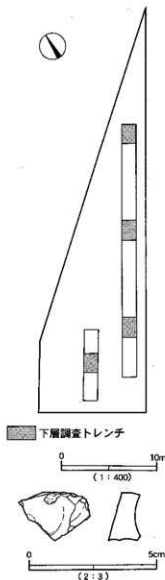
今回の調査においては、遺構・遺物は明確には検出されなかった。調査面積が狭く、機械による大規模な土の入れ替えによって、著しくカクランを受けた結果と思われる。

既に述べたが、本遺跡では5地点の成果が明らかになっている。台地中央から北側にかけては、縄文時代（早期・前期・中期・後期）の遺構・遺物が検出されている。また南側のa、b地点においても、縄文時代後期の遺物が主体量出土した。e地点で弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡1軒が検出されているが、奈良・平安時代の遺物については他の地点も含めて散発的な分布を示しているように思える。今後の成果を積み上げなければ明確なことは言えないが、遺跡の東西を挟む北方向からの谷津を見下ろす台地縁辺部には縄文時代の遺構が展開しているのではないかと、北側の台地先端部には、弥生時代後期～古墳時代前期の集落が部分的に1地点を形成するのではないかと、奈良・平安時代は、遺跡範囲内で遺構が散在するのではないかと考えたい。

(注1) 八千代市遺跡調査会・八千代市経済部 1982 『千葉県八千代市妻丸遺跡』

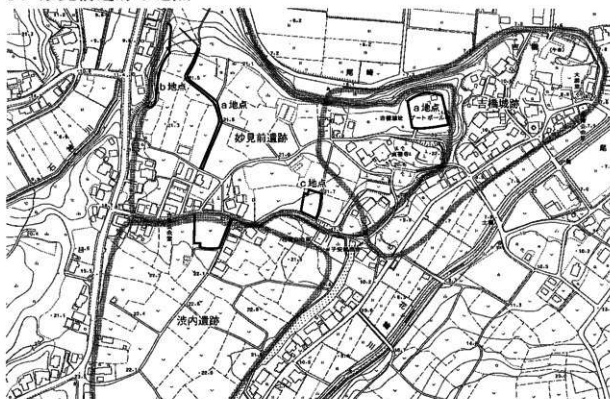
(注2) 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』

(注3) 八千代市教育委員会 2002 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』



第5図 妻丸遺跡f地点
トレンチ配置図・出土遺物

3. 妙見前遺跡c地点



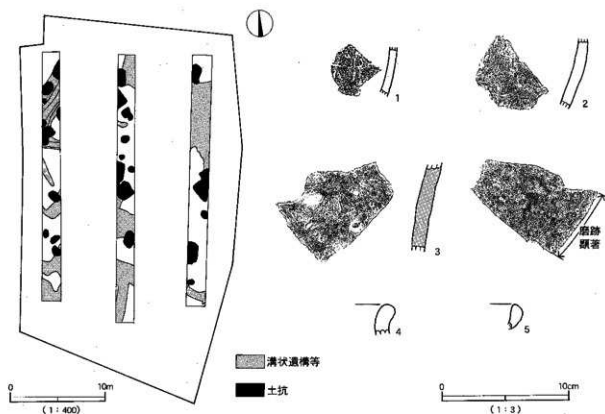
第6図 妙見前遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

妙見前遺跡は、市域西部吉橋地区の桑納川南岸を臨む、標高20m~21mの台地上平坦部に立地する。同じ台地上には、東側に遺跡範囲が重なりあって吉橋城跡、南側に隣接して浪内遺跡、南西に西内野遺跡が存在する。この台地を挟むように、東側を花輪谷津（花輪川）が、西側を石神谷津（石神川）が南北方向に入り込む。

本遺跡はこれまでに2地点について調査を実施している。a地点は本遺跡内中央のやや西側に偏って位置する。平成10年八千代市教育委員会が、農道舗装に先行して確認調査を実施した（注1）。遺構は中世堀跡1条、溝跡6条、地形整形遺構11カ所、ピット3基が、遺物は縄文時代（前期・中期・後期）の土器片、磨石・石皿片、弥生時代後期～古墳時代前期土器片、中世常滑焼の鉢・甕・大甕片が出土している。b地点は遺跡内北西側の台地縁辺部に位置する。平成17年・18年に八千代市遺跡調査会が、急傾斜地対策工事に先行して確認調査、本調査を実施した。確認調査は調査対象地全域での実施で土壘2カ所、土手1カ所、溝2条、土坑3基、地形整形遺構2カ所が検出された（注2）。時期はほぼ中世に想定される。縄文時代、奈良・平安時代の遺物が出土するが、中世古橋城関連の造成時に破壊されている可能性が高い。本調査は平成18年1月に全体の30%にあたる300m²について行った。成果は、中世上層1カ所、堀跡1条、地下式土坑1基、火葬墓1基である。遺物は縄文時代（早期・前期・中期）土器片、中世常滑焼甕片、青磁碗片、石臼片、渡来銭貨2点が出土した。また位置図に示したが、南に隣接する浪内遺跡では、昭和58年天地返し等にかかる事前調査で中世地下式横穴11基、土坑1基が検出された（注3）。遺跡は異なるが今回調査区とは、直線距離で120mと近い位置であり、興味深い。

今回の調査区は遺跡範囲内中央の南側にあたり、浪内遺跡に隣接している。調査区の現況は畑地で、縄文土器、土師器、陶磁器等が散布する。前述の浪内遺跡調査例に見られるように、更に吉橋城に近い



第7図 妙見前遺跡c地点遺構検出状況図・出土遺物

立地でもあり、中世の遺構・遺物が検出される可能性が高い。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせてトレンチを設定し、遺構確認を行った。具体的には幅2m×26.5mのトレンチ2本、2m×28.5mのトレンチ1本の3本を調査区に平行して設定した。重機による掘り下げで遺構確認を実施した。遺構の性格等把握するためにサブトレンチを設定し、掘り下げて性格等の確認に努めた。

調査期間は平成17年6月1日～6月11日で、1日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、1日～3日人力によるトレンチ内精査後サブトレンチによる遺構確定作業、全体図、土層断面図等作成、11日器材撤収等により現場の全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ暗褐色土（焼土、炭化物混入 埋め戻し土）、Ⅱハードロームとなっており、遺物包含層は確認されなかった。

調査の結果、遺構については溝、土坑等の混在した遺構群、遺物については、縄文時代早期土器片、奈良・平安時代土器小片、常滑焼甕胴部片、土師質土器甕片等、近世陶磁器小片が出土した。

調査のまとめ

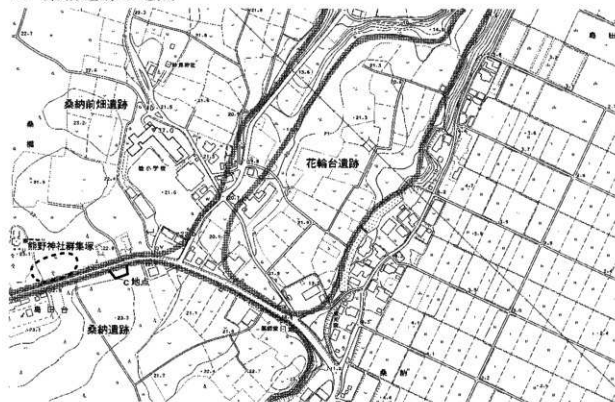
今回の調査では、中世に展開したと想定される遺構群が、ほぼ調査区全域に検出された。前述した浪内遺跡や妙見前遺跡b地点本調査例に明らかなように、吉備城本体から100m～300m離れた地点においても、城を支える遺構群が展開しているようである。こうした遺構群は城域内で変遷をたどりながら、防備、生活上の施設として機能したと想定される。

(注1) 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』

(注2) 平成16年度 千葉県歴史文化財発掘調査抄録

(注3) 八千代市教育委員会 1983 『千葉県八千代市北部遺跡群緊急発掘調査報告書』

4. 桑納遺跡c地点



第8図 桑納遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

桑納遺跡は、市域中央部桑納地区の新川を臨む、標高21m～23mの台地上平坦部に立地する。台地南側では桑納川が東流し、新川に合流する位置にあたる。本遺跡北側に花輪台遺跡・桑納前畑遺跡、南西側に南方方向の谷津を挟んで桑橋新田遺跡が所在する。

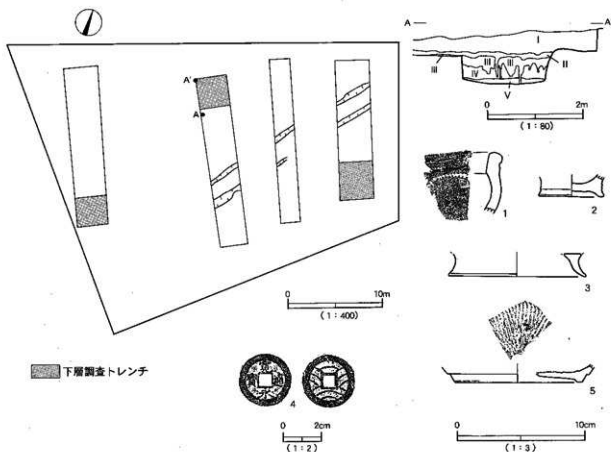
本遺跡はこれまでに3地点において調査されている。a地点は遺跡範囲内南西の谷津に面した台地縁辺部に位置し、送電線建設に先行して確認調査を実施した。遺構は検出されなかったが、縄文土器・土師器片が出土した。b地点1次調査は範囲内南から北西に縦断して計画された農道建設に伴う調査で、昭和58年に八千代市遺跡調査会が本調査を実施した。その結果、弥生時代後期・古墳時代前期・平安時代の竪穴住居跡が25軒検出された。b地点2次調査は遺跡範囲内北西側に位置し、谷津を挟んで桑橋新田遺跡と対峙する。昭和60年八千代市教育委員会が確認調査を実施した。その結果、遺構はピット9基、遺物では縄文時代（前期・中期）土器片が出土している（注1）。

今回の調査区は遺跡範囲内北側に位置し、桑納前畑遺跡と同一台地上に立地する。また、道路を隔てた隣接地に熊野神社群集塚が所在する。現況は周辺を含めて山林であり、情報は少ない。近接地の東側台地縁辺部では古墳時代前期土師器片が散布する。直線距離200m北側の桑納前畑遺跡では、昭和52年校舎増築に伴う発掘調査で縄文時代中期の土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡2棟等が検出された（注2）。

これらの成果から、おおむね縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代の遺構・遺物が想定される。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせてトレンチを設定し、遺構確認を行った。具体的には2m～3.5m×15m～18mのトレンチ4本を調査区に平行して設定した。重機による掘り下げで遺構の有無を随時把握



第9図 桑納遺跡c地点遺構検出状況図・出土遺物

しながら、最終的にはルーム下についても確認トレンチを設定し、掘り下げて遺物確認に努めた。

調査期間は平成17年6月6日～6月9日で、6日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、7日人力によるトレンチ内精査及び下層トレンチ掘り下げ、9日土層断面図等図面作成後器材撤収により調査にかかる全作業を終了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、I表土（暗褐色土）、IIソフトローム漸移層（褐色土）、IIIソフトローム（III層）、IVハードローム（IV～V層）、Vハードローム（IV～V層 第1黒色帯）となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はIII層上面で行った。また遺構確認終了後、III層以下ローム層中の遺物確認のため、調査区の3カ所にトレンチを設定し、ハードロームまで掘り下げた。

調査の結果、遺構は時期不明道路状遺構1条で、III層上面での幅は側溝部分で2.5m～3mである。遺物は、縄文時代中期（阿玉台式）土器片、平安時代土師器埴高台部、寛永通宝・播鉢片等で、表土層中からオキシジミが少量出土している。

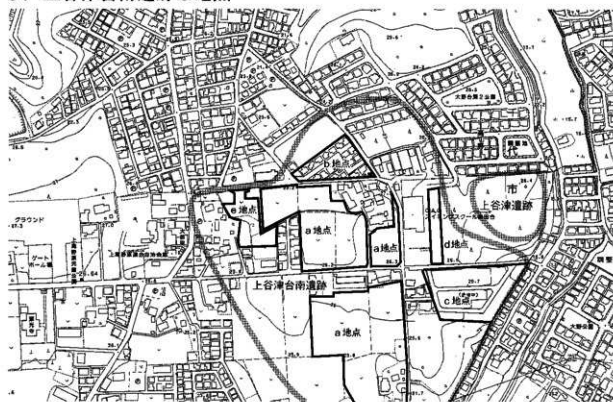
調査のまとめ

今回の調査においては、明確な遺構は検出されなかった。トレンチ内の遺物からは、縄文時代、平安時代等の遺構が想定できる。これは北側の桑納前畑遺跡の様相に近いと想定される。今後調査例が増加していけば、本遺跡を含む周辺部の土地利用が徐々に判明されるだろう。

(注1) 八千代市教育委員会 1987 『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集』

(注2) 陸小学校北方面遺跡調査会 1978 『千葉県八千代市桑納前畑遺跡』

5. 上谷津台南遺跡 e 地点



第10図 上谷津台南遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

上谷津台南遺跡は、市城南東部佐倉市境の高野川西岸を臨む、標高26m～27mの台地上平坦部に立地する。東側隣接地は小谷津を挟んで上谷津台遺跡が、また南側台地へりを西奥に入った谷津先端部には稲荷前遺跡が存在する。

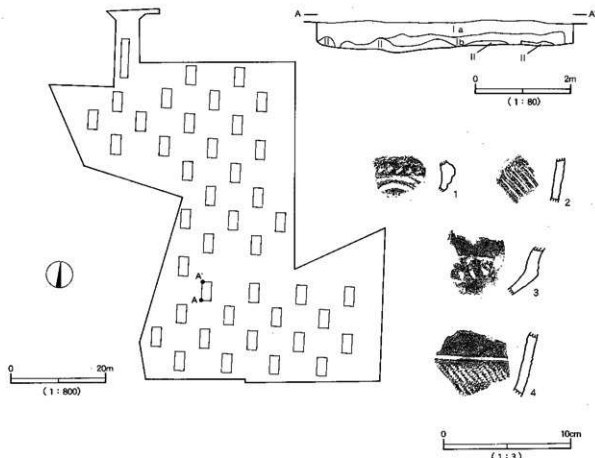
本遺跡はこれまでに4地点において調査されている。a地点は遺跡範囲内ほぼ中央に位置し、土地区画整理事業に先行して、平成7年に八千代市教育委員会が確認調査を行っている(注1)。32,200㎡について調査を実施したが、遺構は縄文時代陥穴2基、時期不明土坑・溝状遺構等が、遺物は縄文時代後期土器片、石斧、石鏃等が少量出土したのみであった。b地点は範囲内北側に位置する。縄文時代後期土器片が少量出土したのみで、遺構は検出されなかった(注2)。c地点は台地東側縁辺部に立地し、小谷津を挟んで上谷津台遺跡に隣接する位置に所在するが、b地点同様の結果であった(注3)。d地点はc地点の北側の台地平坦部に位置する。ここでは、遺物は出土しなかったが、陥穴2基が検出された(注4)。

今回の調査区は遺跡範囲内の西側にあたり、東側でa地点に隣接する。調査区の現況は畑地・荒蕪地で、散布遺物は非常に薄い状況である。a地点の調査成果から縄文時代の遺構・遺物が検出される可能性が高い。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて5m×5mの方眼を設定し、その区画をもとに2m×4mのトレンチを10m間隔で配置し、遺構確認を行った。重機着手前に入力によるトレンチ掘り下げによって包含層調査を実施した。

調査期間は平成17年6月6日～6月24日で、6日器材・トイレ搬入、7日～9日下草刈り後方眼杭・トレンチ設定、9日～14日手掘りによる包含層調査、10日・15日重機によるトレンチ内掘り下げ、16日



第11図 上谷津台南遺跡 e 地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物

～21日トレンチ内精査，上層断面図等図面作成，22日重機による埋め戻し作業，23日～24日器材撤収により現場を終了し，全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は，I a 表土（暗褐色土），I b 表土（I a より締まっている。），II ソフトローム（III 層）となっており，遺物包含層は確認されなかった。遺構確認は II ソフトローム上面で行った。

調査の結果，遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器のみで，全体でも 8 点程度で出土量は少ない。4 点を図示した。1 は縄文時代後期（堀之内式），2～4 は後期（加曾利 B 式）の胴部片である。

調査のまとめ

今回の調査では，少量の遺物のみで，遺構は検出されなかった。本遺跡は今までの成果からも，遺構としては陥穴，土坑のみの検出である。遺物については，縄文時代後期を主体としながらもその出土量は少ない。ごく限られた時期に狩場として利用されたと考えてよく，母体となるムラが別の場所に存在しているのであろう。

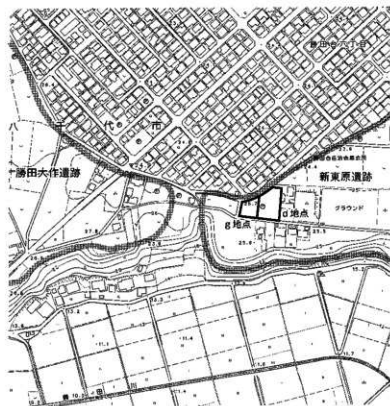
〔注 1〕 八千代市教育委員会 1997 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成 8 年度』

〔注 2〕 八千代市教育委員会 1997 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成 8 年度』

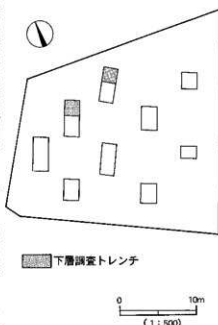
〔注 3〕 八千代市教育委員会 2001 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成 12 年度』

〔注 4〕 八千代市教育委員会 2002 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成 13 年度』

6. 新東原遺跡 g 地点



第12図 新東原遺跡位置図 (S=1:5,000)



第13図 新東原遺跡 g 地点
トレンチ配置図・位置図

遺跡の立地と概要

新東原遺跡は、市城南東部勝田地区の勝田川北岸を臨む、標高20m~25mの台地上平坦部から緩傾斜面に立地する。西側は小谷津を隔てて勝田大作遺跡と接し、東側は南北方向の谷津が入り込み、佐倉市境となる。

本遺跡はこれまでに6地点について調査を実施している。詳細は各報告書に譲るが、遺構については旧石器時代(Ⅲ層~Ⅳ層上部)ブロック群、縄文時代前期後半の堅穴住居跡、同後期の土坑群、近・現代の土坑群等が検出された。遺物は出土量は少ないが、縄文時代後期(加曾利B式)土器片が主体的である。

今回の調査区は遺跡範囲内西側端部にあたり、d地点に隣接している。調査区の現況は駐車場で、d地点での成果から縄文時代後期の遺構・遺物が検出される可能性が高いと判断される。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて10m×10mの方眼を設定し、その区画を基に幅2m×2~5mのトレンチを配置し遺構確認を行った。最終的にはルーム下についても確認トレンチを設定し、遺物確認に努めた。

調査期間は平成17年6月29日~7月2日で、29日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、29日~7月1日人力によるトレンチ内精査及び下層トレンチ掘り下げ、6月30日~7月1日土層断面図等図面作成、器材撤収により現場を終了し、7月2日埋め戻しにより全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ盛土(表上からソフトローム漸移層上までが掘削され、ルーム土・黒色土・暗褐色上等が残上として充填される。)、Ⅱ暗黄褐色土(ソフトローム漸移層)、Ⅲソフトローム(Ⅲ層)、Ⅳハードローム(Ⅳ層以下)となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はⅢソフトローム上面で行った。また、トレンチ内精査終了後ルーム層下の下層調査に移行した。2m×2mのトレンチを2カ所設定し、ハードローム層上部を日安に掘り下げた。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。基本的な土層堆積が損なわれており、縄文時代以降の遺構・遺物に関する情報がなかったことが原因といえる。

調査のまとめ

今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。これまでの調査は、d地点を除いて遺跡範囲内の東側ないし南側での成果であった。勝田大作遺跡に近い、本遺跡範囲内西側の当該地においても、縄文時代の足跡がたどれたことは大きな収穫といえる。今後、このエリア内での開発事業は増加する可能性が高い。必ずしも良い状況とはいえないが、新東原遺跡での土地利用を考える意味で期待したい。

参考文献

- a 地点 八千代市遺跡調査会 2004 『千葉県八千代市新東原遺跡 a 地点発掘調査報告書 - 宅地造成に伴う歴史文化財発掘調査 -』
 b、c 地点 八千代市教育委員会 2004 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成15年度』
 d 地点 八千代市教育委員会 2005 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』
 e、f 地点 八千代市教育委員会 2006 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成17年度』

7. 桑橋新田遺跡 d 地点



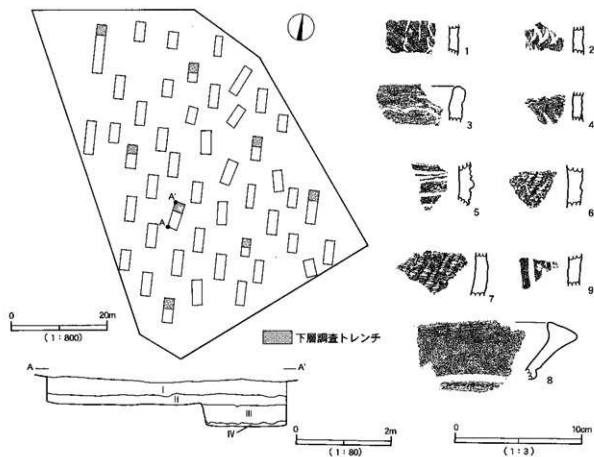
第14図 桑橋新田遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

桑橋新田遺跡は、市域中央部桑橋地区の東端部に、桑納地区に隣接する。台地南側に桑納川を臨む、標高20m～23mの台地上平坦部に立地する。本遺跡東側に谷津を隔て桑納遺跡、西側には大東台遺跡が存在する。

本遺跡はこれまでに3地点において調査されている。3地点共に遺跡範囲内中央から南側に位置する。

a 地点は、昭和51年に桑橋遺跡調査団が本調査を実施し、弥生時代後期の竪穴住居跡3軒、方形周溝墓4基、古墳時代・平安時代の竪穴住居跡等が検出された(図1)。b 地点は平成4・6年に(図2)、c 地点は平成6年に(図3)八千代市教育委員会が確認調査を実施した。弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住



第15図 桑橋新田遺跡d地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物

居跡を主体として、縄文時代（早期～後期）土器片、石器類が出土した。

今回の調査区は遺跡範囲内の北側にあたる。調査区の現況は竹を主体とする山林である。周辺の畑地では少量の土器片が散布し、東に隣接した桑納遺跡a地点(注4)では縄文時代中期のビット群が検出されていることから、縄文時代から古墳時代、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出される可能性が高い。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて10m×10mの方眼を設定し、その区画を基に幅2m×5mのトレンチを基本として配置し遺構確認を行った。最終的にはローム下についても確認トレンチを設定し、遺物確認に努めた。

調査期間は平成17年7月8日～7月21日で、8日～11日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、11日～15日人力によるトレンチ内精査及び下層トレンチ掘り下げ、15日～19日土層断面図等図面作成後、器材撤収により現場を終了し、21日埋め戻しにより全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、I表土、II黒褐色土（褐色上から暗褐色上がまばらに混入、一体化した層）、III暗黄褐色土（III層）、IVハードローム（IV層以下）となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はIIIソフトローム上面で行った。また、トレンチ内精査終了後ローム層下の下層調査に移行した。2m×2mのトレンチを8ヶ所設定し、ハードローム層上部を日安に掘り下げた。

調査の結果、遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器のみで、全体でも11点程度と出土量は少ない。9点を図示した。縄文早期～後期に亘ると考えられる。1は早期沈線文系の田戸上層式か、2は前期浮島式で波状貝殻文を施文する。3～7は中期前半阿玉台式で1b～4式と時間差がみられる。8は中期

加曾利E式の口縁部、9は後期前半称名寺式で、沈線と列点文が施文される。

調査のまとめ

今回の調査は、遺跡範囲内でも北側部分の、台地平坦面での調査事例となった。結果として、遺構は検出されず、縄文土器片が少量出土したのみであった。この部分は隣接する桑納遺跡a地点での成果によっても、15000㎡の確認調査で縄文時代中期のピット9基、同時代中期主体の土器片が少量という散漫な状況である。今後、資料の蓄積を待たねばならないが、桑橋新田遺跡では確認調査の成果から縄文時代の遺構・遺物がやや多く、石皿・凹石といった調理具の出土もみられる点は、主体となる遺構群が台地縁辺部に展開する可能性がある。桑納遺跡・大東台遺跡の桑納川を臨む台地縁辺部にも注目していきたい。

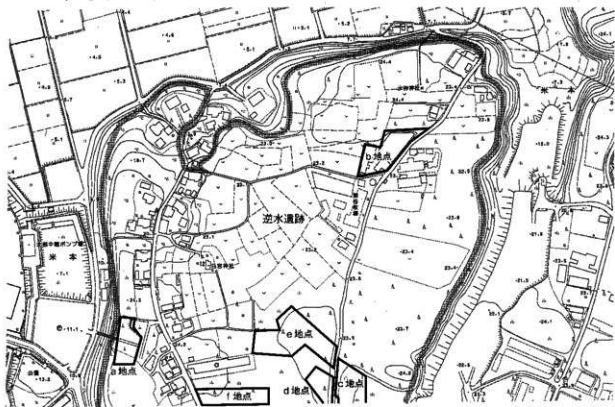
(注1) 八千代市史編さん委員会編 1991 『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』第3章遺跡総覧

(注2) 八千代市教育委員会 1995 『八千代市埋蔵文化財調査年報 -平成6年度-』

(注3) 八千代市教育委員会 1996 『八千代市埋蔵文化財調査年報 -平成6年度版-』

(注4) 八千代市教育委員会 1987 『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集』

8. 逆水遺跡e地点

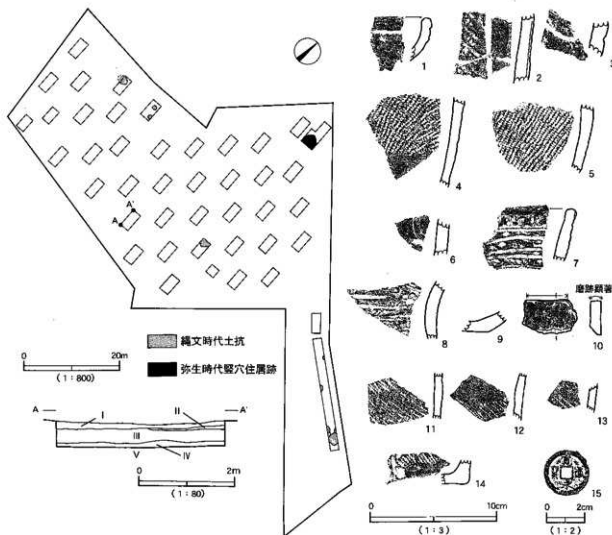


第16図 逆水遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

逆水遺跡は、市域北東部米本地区の北端部で、南北方向の谷津を挟んで、東側の神野地区と隣接する。台地北側にやや蛇行した部分の新川を臨む、標高20m~23mの台地上平坦部に立地する。本遺跡は南側に取り付く舌状台地に所在し、北側に水田面、東西に南北方向の谷津が入り込んでいる。

本遺跡はこれまでに4地点において調査されている。a地点は遺跡範囲内西側中央に位置し、墓地造成事業に先行して、平成8年4月に八千代市遺跡調査会が本調査を行っている(注1)。遺構は弥生時代後期の竪穴住居跡4軒、同期上坑1基、中近世墓坑19基が、遺物は弥生時代後期土器片、平安時代土師器片、



第17図 逆水遺跡e地点遺構検出状況図・基本層序・出土遺物

永楽通宝等銭貨が出上した。b地点は範囲内北側に位置する(注2)。平成8年11月に八千代市教育委員会が確認及び一部本調査を実施した。遺構は弥生時代中期方形周溝墓6基、時期不明溝1条・土坑2基が、遺物は弥生時代中期土器が出土した。c地点は範囲内南東部に位置する(注3)。平成13年に八千代市教育委員会が確認調査を実施した。弥生時代後期の竪穴住居跡1軒と同時期の土器片が検出された。d地点はc地点に隣接する(注4)。平成14年に八千代市教育委員会が確認調査を実施した。c地点と同様に、弥生時代後期の竪穴住居跡2軒と同時期の土器片が検出された。

今回の調査区はd地点の北側にあたり、台地のやや奥まった平坦部に所在する。調査区の現況は山林で、散布遺物は不明であるが、c、d地点の調査成果から弥生時代の遺構・遺物が検出される可能性が高い。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて5m×5mの方眼を設定し、その区画をもとに2m×4mのトレンチを10m間隔で配置し、遺構確認を行った。重機着手前に入力によるトレンチ掘り下げによって包含層調査を実施した。

調査期間は平成17年7月21日～8月4日で、21日器材・トイレ搬入、22日～25日方眼杭・トレンチ設定、24日～25日手掘りによる包含層調査、25日・27日重機によるトレンチ内掘り下げ、27日～8月2日トレンチ内精査、土層断面図等図面作成、3日器材撤収、4日重機による埋め戻し作業で全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ表土（暗褐色土）、Ⅱ明褐色土（新时期テフラ層）、Ⅲ暗褐色土、Ⅳ暗黄褐色土（ソフトローム漸移層）、Ⅴソフトローム（Ⅲ層）で、遺構確認はⅤソフトローム上面で行った。

調査の結果、遺構は縄文時代中・後期の土坑10基、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒が検出された。遺物は縄文土器では13点の出土で、10点を図示した。1は中期（阿玉台1b式）で口縁下に角押文、2～6は後期（称名寺式）で縄文や条線を施文する。7,8は後期（加曾利B式）で組線や沈線間に縄文を施文する。10は後期（称名寺式～堀之内式）の胴部片で、上辺に擦られた痕跡が明瞭である。11～14は弥生土器で、附加条縄文を施文する。全体に砂粒が多い。

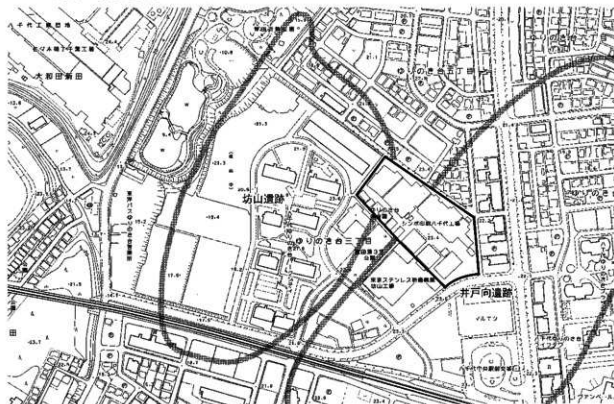
調査のまとめ

今回、弥生時代後期の住居跡群が更にその広がりを見せ、展開する方向性を確信できたことは成果と言える。

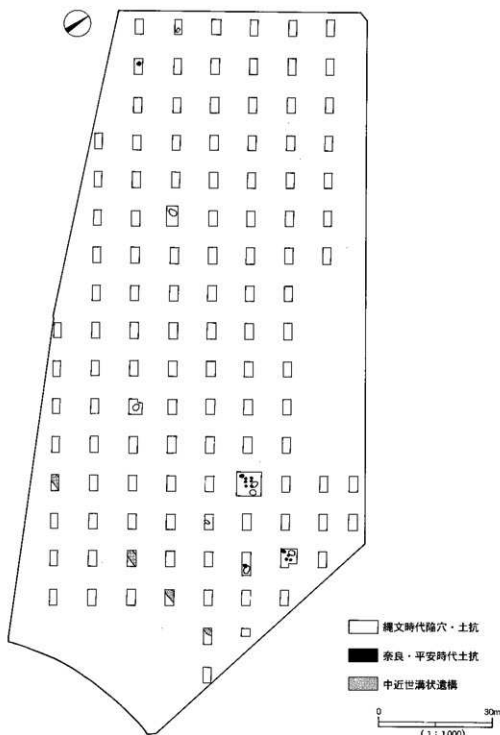
更には、本遺跡内で今まで散発的な遺物のみの出土であった縄文時代について、後期の土坑群が検出されたことは評価されよう。

- (注1①) 八千代市教育委員会 1996 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成7年度』
- (注1②) 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市市内出土人骨分析委託報告書Ⅱ』
- (注2) 八千代市教育委員会 1997 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度』
- (注3) 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
- (注4) 八千代市教育委員会 2004 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成15年度』

9. 井戸向遺跡 a 地点



第18図 井戸向遺跡位置図 (S=1:5,000)



第19図 井戸向遺跡 a 地点遺構検出状況図

遺跡の立地と概要

井戸向遺跡は、市域中央部萱田地区の新川東岸を臨む、標高17m～23mの台地上平坦部から緩傾斜面に立地する。北側は同一台地上に北海道遺跡、西側に坊山遺跡と接する。南側は東西方向の谷津が入り込み、寺谷津と呼称される。また、同一台地上の北海道遺跡北側にも東西方向の谷津が入り、須久茂谷津と呼称される。

本遺跡での調査例は今回が初めてである。a地点としておきたい。ただ、財団法人千葉県文化財センターが本遺跡を含む遺跡群を、萱田地区土地区画整理事業に先行して調査を実施している。本遺跡での

成果は、先石器時代遺物集中地点43ヵ所、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡107軒、同時代の掘立柱建物跡44棟等である(注1)。遺構の分布は、南側の寺谷津に近い台地縁辺部から緩傾斜面に多い状況である。

今回の調査区は遺跡範囲内北西部にあたり、同一台地上の坊山遺跡内にも一部含まれる。調査区の現況は工場跡地で、財団法人千葉県文化財センターの隣接地での調査成果から、遺構密度は薄くなりながらも、竪穴住居跡等の遺構や遺物が検出される可能性があると判断される。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて10m×10mの方眼を設定し、その区画を基に幅2m×4mのトレンチを配置し遺構確認を行った。また、必要に応じてトレンチの拡張を行い、落ち込みの性格についての確定に努めた。

調査期間は平成17年8月17日～8月29日で、17日～20日トレンチ設定後重機によるトレンチ掘り下げ、22日～25日人力によるトレンチ内精査、26日土層断面図等図面作成、器材撤収により現場を終了し、29日埋め戻しにより全作業を完了した。

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ表土(暗褐色土)、Ⅱソフトローム(Ⅲ層)、Ⅳハードローム(Ⅳ層以下)となっており、遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はⅡソフトローム上面で行った。

調査の結果、遺構は縄文時代の陥穴6基・土坑2基、奈良・平安時代の土坑13基、中・近世溝状遺構1条が検出された。遺物は縄文土器、奈良・平安時代土師器等で小片のため図示しなかった。

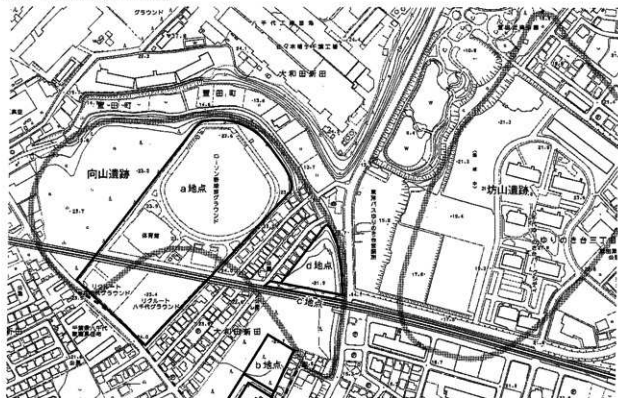
調査のまとめ

今回の調査において、縄文時代の陥穴・土坑が検出されたことは成果と言えよう。同一台地上に所在する遺跡では、坊山遺跡北側に竪穴住居跡1軒と時期不明の土坑群が検出されているだけである。本遺跡では、旧石器時代以降は弥生時代に足跡が見られ、縄文時代には皆無である。北海道遺跡についても同様のことが言える。同一台地上での台地平坦部の土地利用について、今後考慮すべきであろう。

(注1①) 財団法人千葉県文化財センター 1987 『八千代市井戸向遺跡』-壹田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-

(注1②) 財団法人千葉県文化財センター 1994 『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡』-壹田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-

10. 向山遺跡 d 地点



第20図 向山遺跡位置図 (S=1:5,000)

遺跡の立地と概要

向山遺跡は、市域中央部大和田新田地区の東部分で、東側で萱田地区に隣接する。新川西岸に至る萱田地区の須久茂谷津の奥部で、谷津が分岐する標高20m～23mの台地上平坦部に立地する。本遺跡東側に谷津を隔て坊山遺跡が所在する。

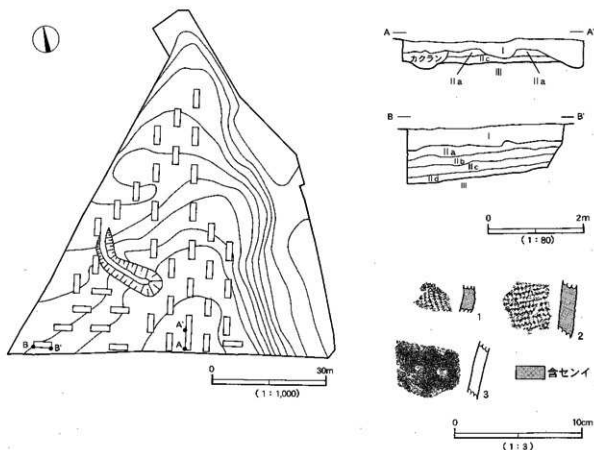
本遺跡はこれまでに3地点において調査されている。a地点は、昭和56年に八千代市遺跡調査会が確認・一部本調査を実施し、土坑、焼土跡が検出された(注1)。遺物は、旧石器時代ナイフ形石器・ポイント、縄文時代前・中期土器片が出土している。b地点は平成12年に(注2)、c地点は平成13年に(注3)八千代市教育委員会が確認調査を実施した。b地点では時期不明のピット1基、縄文時代中期土器片1点が、c地点では縄文時代のピット1基、遺物では旧石器時代石器剥片、縄文時代前・中期土器片が出土した。また、平成元年から2年に財団法人千葉県文化財センターが実施した東葉高速線高架下の調査においても、旧石器時代石器・剥片、縄文時代前・中期土器片が出土した(注4)。

今回の調査区は遺跡範囲内の東側台地縁辺部にあたる。調査区の現況は山林である。前段にもふれたようにこれまでの調査成果から、旧石器時代、縄文時代の遺構・遺物が検出される可能性が高い。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて10m×10mの方眼を設定し、その区画を基に幅2m×5mのトレンチを基本として配置し遺構確認を行った。重機着手前に人力によるトレンチ掘り下げによって包含層調査を実施した。また、遺構の性格を確定するために、トレンチの拡張を随時行った。

調査期間は平成17年10月6日～10月26日で、6日～7日方眼杭・トレンチ設定、7日～12日手掘りによる包含層調査、13日～14日重機によるトレンチ掘り下げ、19日～25日人力によるトレンチ内精査、24日土層断面図等図面作成、25日器材撤収により現場を終了し、26日埋め戻しにより全作業を完了した。



第21図 向山遺跡d地点トレンチ配置図・基本層序・出土遺物

調査の概要

本遺跡の基本層序は、I表土、II a黒褐色土（腐食土層）、II b明褐色土（新期テフラ層）、II c暗褐色土、II d暗黄褐色土（ソフトローム漸移層）、IIIソフトローム（III層）となっている。遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はIIIソフトローム上面で行った。

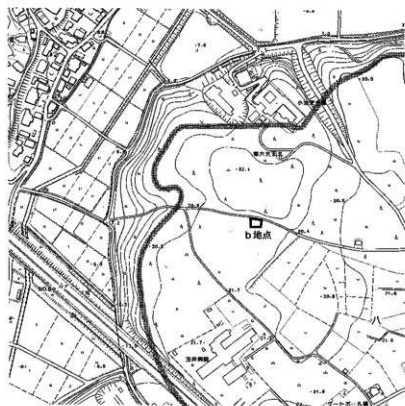
調査の結果、遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器では、9点程度である。3点を図示した。縄文前期主体と考えられる。1・2は前期黒浜式で縄文を施文する。胎土中に繊維を含む。3は前期後半か。焼成良好でやや砂粒を含む。また、小片のため図示していないが、須恵器環の口縁部1点が出土した。

調査のまとめ

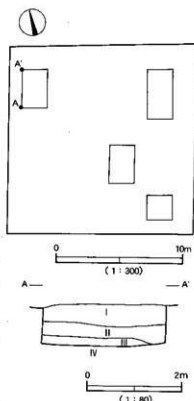
今回の調査では、遺構は検出されなかった。本遺跡内の遺構分布を概観すると、集落跡ではなく、土坑群としてのまとまりも示していない。縄文時代前期を主体とした足跡は見られるようだが、積極的な土地利用ではない。今後の資料の蓄積に待たねばならないが、集落主体の場、生産活動としての場等使い分けがあったのではないだろうか。

- | | | | |
|------|------------------|------|---|
| (注1) | 八千代市史編さん委員会編 | 1991 | 『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』第3章遺跡総覧 |
| (注2) | 八千代市教育委員会 | 2002 | 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』 |
| (注3) | 千葉県教育庁生涯学習部文化財課編 | 2003 | 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成13年度』 |
| (注4) | 財団法人千葉県文化財センター | 1994 | 『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他 -千葉県高速鉄道埋蔵文化財発掘調査報告書-』 |

11. 作山遺跡b地点



第22図 作山遺跡位置図 (S=1:5,000)



第23図 作山遺跡b地点
トレンチ配置図・基本層序

遺跡の立地と概要

作山遺跡は、市域西北部小池地区の神崎川南岸を臨む、標高18m~21mの台地上平坦部に立地する。西側は鈴身川を境として船橋市に接する。

本遺跡はこれまでに1地点について調査を実施している。今回調査地の250m東側で、八千代市教育委員会が平成13年の確認調査の結果に基づき、平成14年1月本調査を実施した(注1)。その結果、古代の方形周溝遺構1基、15世紀代の土坑墓25基、溝状遺構1条が検出された。

今回の調査区は遺跡範囲内のほぼ中央にあたる。現況は竹林で、東側に畑地が広がる。奈良・平安時代の土師器等が薄く散布する。a地点での成果は、距離や遺構の特殊性から参考程度と思われる。

調査の方法と経過

調査は、調査区の形状に合わせて10m×10mの方眼を設定し、その区画を基に幅2m×3mのトレンチを基本として配置し遺構確認を行った。

調査期間は平成17年10月20日~10月24日で、20日方眼杭・トレンチ設定、21日重機によるトレンチ掘り下げ、21日~24日人力によるトレンチ内精査、土層断面図等図面作成、器材撤収により現場を終了し、24日埋め戻しにより全作業を完了した。

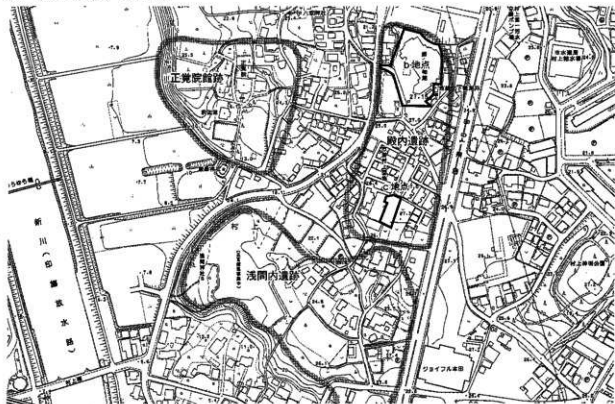
調査の概要とまとめ

本遺跡の基本層序は、I表土、II暗褐色土、III暗黄褐色土(ソフトローム漸移層)、IVソフトローム(III層)となっている。遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はIVソフトローム上面で行った。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。本遺跡内での調査例は少なく、今後の蓄積により徐々に判明していくことになるとと思われる。

(注1) 八千代市教育委員会 2003 「千葉県八千代市作山遺跡発掘調査報告書」

12. 殿内遺跡 c 地点



第24図 殿内遺跡位置図 (S=1:5000)

遺跡の立地と概要

殿内遺跡は、市域中央部村上地区の新川東岸を臨む台地上平坦部に立地する。標高は25m～27mで、同一台地上北側に境作遺跡、西側に正覚院館跡・持田遺跡、南西側に谷津を挟んで浅間内遺跡が所在する。同一台地は、北側では南東方向に入り込む谷津が、南側ではやや広い沖積地で、これらに挟まれた舌状台地の地形となっている。本遺跡はその台地上中央部に所在する。

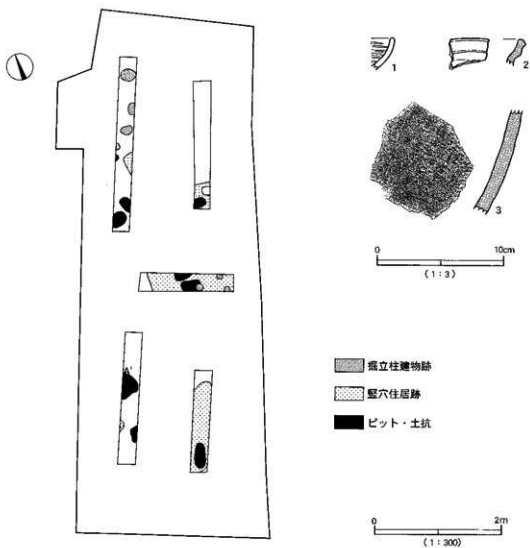
本遺跡はこれまでに2地点において調査されている。a地点は、昭和60年～61年に八千代市遺跡調査会が確認調査・本調査を実施し、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒が検出された(註1)。b地点は本市郷土資料館建設に先行して、平成2～4年に3度にわたって行われた。平成19年2月現在整理中で、遺構では古墳時代前期竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代竪穴住居跡38軒・同掘立柱建物跡1棟・同ピット40基、近世墓坑5基、時期不明方形周溝(墓)遺構1基等が、遺物は奈良・平安時代土師器、須恵器を中心に旧石器時代、縄文時代、古墳時代が散見する。

今回の調査区は周知の遺跡範囲外でその南側台地平坦部にあたる。調査区の現況は畑地である。前段にもふれたようにこれまでの調査成果から、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出される可能性が高い。

調査の方法と経過

調査は、I調査に至る経緯で触れたように、遺跡の所在の有無にかかる試掘において遺構が検出された経過があり、確認調査は緊急を要した。調査区の形状に合わせて、任意に幅1.4m×8m～14mのトレンチを設定し遺構確認を行った。

調査期間は平成17年11月7日の1日のみで、トレンチ設定、重機によるトレンチ掘り下げ、人力によるトレンチ内精査、遺構検出状況図等図面作成後、埋め戻しにより全作業を完了した。



第25図 殿内遺跡c地点遺構検出状況図・出土遺物

調査の概要

本遺跡の基本層序は、Ⅰ耕作土、Ⅱ暗褐色土、Ⅲソフトローム（Ⅲ層）となっている。遺物包含層は確認されなかった。遺構確認はⅡ暗褐色土～Ⅲソフトローム上面で行った。

調査の結果、遺構は奈良・平安時代の堅穴住居跡7軒、同掘立柱建物跡2棟、同土坑9基が、遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器片が出土した。遺物は30点程度である。3点を図示した。1は土師器坏で内面に横位ヘラ磨き後黒色処理している。2は須恵器小型壺の口辺部、3は須恵器壺胴部片で長石片を混入する。

調査のまとめ

今回の調査で、本遺跡の範囲が南側に広がったことが確認できた。先に示したが、本遺跡を含む舌状台地上には持田遺跡・境作遺跡・浅間内遺跡（注2）が存在する。更に南東には、村上込ノ内遺跡・名主山遺跡等からなる村上遺跡群（注3）が存在する。個々の調査報告書を検討しなければ詳細は言えないが、この舌状台地の土地利用の隆盛期は8世紀代を中心にした時期であることは言えよう。

- (注1) 千葉県教育庁文化課編 1987 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和60年度』
 (注2) 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
 (注3) 財団法人千葉県都市公社 1975 『八千代市村上遺跡群 1974』
 (注4) 財団法人千葉県文化財センター 1994 『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他 東葉高速鉄道埋蔵文化財発掘調査報告書』

(1)～(4) 東向遺跡 a 地点・(5)～(8) 麦丸遺跡 f 地点



(1) 作業風景



(2) トレンチ完掘状況



(3) トレンチ完掘状況



(4) 出土遺物



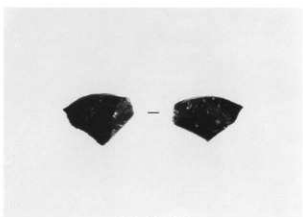
(5) 作業風景



(6) トレンチ掘り下げ状況



(7) トレンチ掘り下げ状況



(8) 出土遺物

図版2

(1)～(4) 妙見前遺跡 c 地点・(5)～(8) 桑納遺跡 c 地点



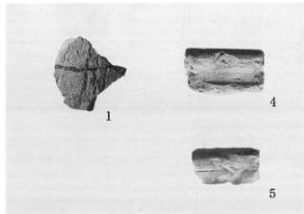
(1) 調査前状況



(2) 作業風景



(3) トレンチ掘り下げ状況



(4) 出土遺物



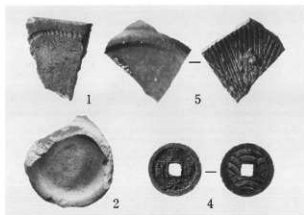
(5) 調査状況



(6) 作業風景



(7) トレンチ完掘状況



(8) 出土遺物

(1)～(3)・(7) 上谷津台南遺跡 e 地点・(4)～(6) 新東原遺跡 g 地点・(8) 桑橋新田遺跡 d 地点



(1) 作業風景



(2) トレンチ掘り下げ状況



(3) 実測風景



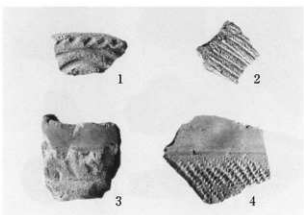
(4) 調査状況



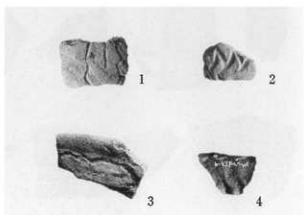
(5) 作業風景



(6) トレンチ完掘状況



(7) 出土遺物



(8) 出土遺物

図版4

(1)～(4) 桑橋新田遺跡d地点・(5)～(7) 逆水遺跡e地点



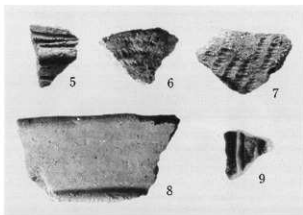
(1) 調査状況



(2) トレンチ掘り下げ状況



(3) トレンチ完掘状況



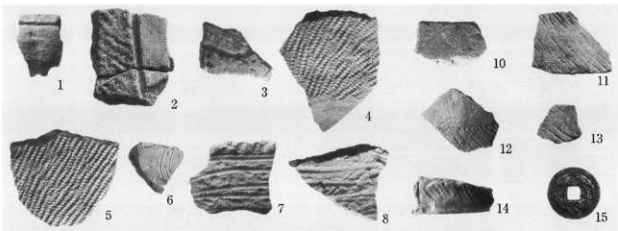
(4) 出土遺物



(5) トレンチ掘り下げ状況



(6) 作業風景



(7) 出土遺物

(1)～(6) 井戸向遺跡 a 地点・(7)～(8) 作山遺跡 b 地点



(1) トレンチ掘り下げ状況



(2) 作業風景



(3) 実測風景



(4) プラン確認状況



(5) プラン確認状況



(6) プラン確認状況



(7) 調査風景



(8) トレンチ掘り下げ状況

図版6

(1)～(4) 向山遺跡d地点・(5)～(8) 殿内遺跡c地点



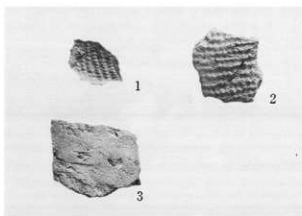
(1) 調査前状況



(2) 調査風景



(3) 土層堆積状況



(4) 出土遺物



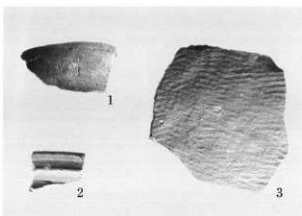
(5) 調査風景



(6) I Tプラン確認状況



(7) 3 Tプラン確認状況



(8) 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよししないいせきはくつちようさほうこくしよ へいせい18ねんど
書名	千葉県八千代市内道路除塵調査報告書 平成18年度
編集者名	森竜哉 朝比奈竹男
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 TEL047-483-1151
発行年月日	西暦2007年(平成19年)3月29日

ふりがな 所収道路名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路番号					
ひがしむかい 東向道路 a 地点	やちよしよしほしあざひがしむかい 八千代市吉備字東向 2700-1	12221	128	35度 44分 29秒	140度 4分 38秒	20050516～ 20050519	上層 59.4/429.08 下層 6.8/429.08	通信铁塔建設
むぎまる 麦丸道路 f 地点	やちよしむぎまるあざかわつか 八千代市麦丸字金塚 1122-1	12221	151	35度 44分 25秒	140度 6分 23秒	20050523～ 20050526	上層 39.6/282.1 下層 9.6/282.1	通信铁塔建設
みょうけんまえ 妙見前道路 c 地点	やちよしほしあざみょうけんまえ 八千代市吉備字妙見前 1375-1	12221	133	35度 44分 28秒	140度 5分 20秒	20050601～ 20050611	上層 113.6/775.76	宅地造成
かんのう 桑納道路 c 地点	やちよしかんのうあざいさく 八千代市桑納字井作 198-1 他	12221	57	35度 45分 9秒	140度 6分 1秒	20050606～ 20050611	上層 40.9/291.84 下層 6.75/291.84	通信铁塔建設
かみやつたいみなみ 上谷津台南道路 e 地点	やちよしかみやつたい 八千代市上高野字上谷 津台1082-1の一部	12221	229	35度 43分 17秒	140度 8分 26秒	20050606～ 20050624	上層 342/2,897	宅地造成
しんとらばら 新東原道路 g 地点	やちよしかつたあざしんとらばら 八千代市露田字新東原 1259-2, 6	12221	259	35度 41分 54秒	140度 8分 9秒	20250629～ 20050702	上層 64/595.77 下層 8/595.77	共同住宅建設
そうのほししんでん 桑橋新田道路 d 地点	やちよしそうのほしあざいとうだい 八千代市桑橋字大東台 774-5 他	12221	59	35度 45分 6秒	140度 5分 43秒	20050708～ 20050721	上層 410/2,970.68 下層 32/2,970.68	店舗建設
さかさみず 逆水道路 e 地点	やちよしなるとあざさかさみず 八千代市米本字逆水 1221-1 他	12221	100	35度 45分 29秒	140度 7分 12秒	20050721～ 20050804	上層 377/3,012	資材置場造成
いどむかい 井口向道路 a 地点	やちよしゆりのあざい 八千代市ゆりのき台 3-4, 5, 6	12221	284	35度 43分 36秒	140度 6分 13秒	20050817～ 20050829	上層 978/13,570.46	集合住宅建設
さくやま 作山道路 b 地点	やちよしさいけあざがさく 八千代市小池字長作 377, 378	12221	1	35度 46分 33秒	140度 5分 28秒	20051020～ 20051024	上層 24/228.17	通信铁塔建設
むこうやま 向山道路 d 地点	やちよしおがたあざむこうやま 八千代市大和田新田字 向山1510-2ほか	12221	173	35度 43分 34秒	140度 6分 5秒	20051006～ 20051026	上層 380/3,958	店舗建設
とのうち 殿内道路 c 地点	やちよしむらかみあざとのうち 八千代市村上字殿内 1567の一部	12221	203	35度 43分 30秒	140度 7分 15秒	20051117～ 20051117	上層 643/499.95	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東向遺跡 a 地点	包蔵地	奈良・平安時代	なし	土師器	
麦丸遺跡 f 地点	包蔵地	縄文時代	なし	黒曜石割片	
妙見前遺跡 c 地点	包蔵地	縄文時代	なし	縄文土器	
	包蔵地	奈良・平安時代	なし	土師器	
	包蔵地	中・近世	溝状遺構・土坑	陶器	
桑納遺跡 c 地点	包蔵地	縄文時代	なし	縄文土器	
	包蔵地	奈良・平安時代	なし	土師器	
	包蔵地	近世	道路状遺構 1 条	寛永通宝	
上谷津台南遺跡 e 地点	包蔵地	縄文時代	なし	縄文土器	
新東原遺跡 g 地点	包蔵地	縄文時代	なし	なし	
桑橋新田遺跡 d 地点	包蔵地	縄文時代	なし	縄文土器	
逆水遺跡 e 地点	集落跡	縄文時代	土坑10基	縄文土器	
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 1 軒	弥生土器	
井戸向遺跡 a 地点	集落跡	縄文時代	陥穴 6 基, 土坑 2 基	縄文土器	
	集落跡	奈良・平安時代	土坑13基	土師器	
	集落跡	中世・近世	溝状遺構 1 条	なし	
作山遺跡 b 地点	包蔵地	縄文時代	なし	なし	
	包蔵地	古墳時代	なし	なし	
	包蔵地	奈良・平安時代	なし	なし	
	包蔵地	中世	なし	なし	
向山遺跡 d 地点	包蔵地	縄文時代	なし	縄文土器	
	包蔵地	奈良・平安時代	なし	須恵器	
殿内遺跡 c 地点	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡 7 軒, 掘立柱建物跡 2 棟, 土坑 9 基	土師器・須恵器	

千葉県八千代市
市内遺跡発掘調査報告書
平成18年度

印刷日 平成19年3月23日
発行日 平成19年3月29日
編集・発行 八千代市教育委員会 社会教育課
〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2
TEL 047(483)1151

印刷 株式会社 マネジメント オオナカ